

キク類の土壌病害を防止するために

1 はじめに

今年は非常に暑く、植物にとって非常に過酷な夏でした。そのせいか、立枯性の病害が所々見られ、収穫率が低下するほ場もありました。来年夏の発生を抑えるにはどうするか、対策のポイントをまとめてみました。

2 土壌病害の種類と特徴

ぱっと見は同じような症状の土壌病害でも、注意してみるとある程度は現場でも見分けがつけられます。

病害の特徴を右図に示しました。茎表面が変色していないか、カビが生えていないか、茎内部の維管束が褐変していないかなどいろいろありますが、殆どの病害は細菌（青枯病、軟腐病）ではなくカビによるものです。

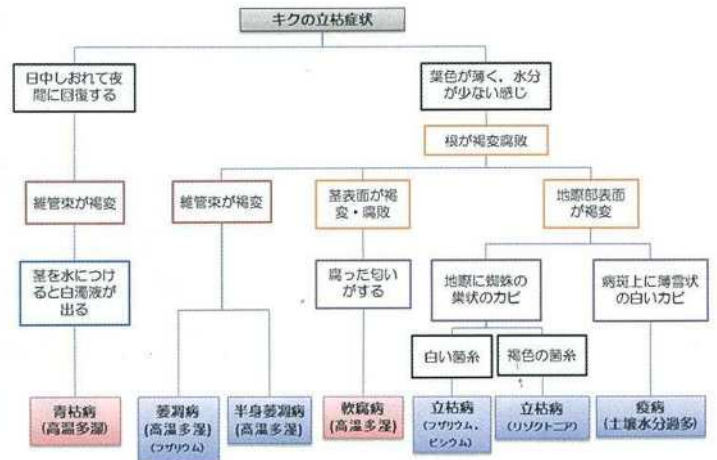


図1 高温期に発生する立枯病の見分け方

3 病害の発生条件

病害発生 of 三要素を右に示しました。いずれの病害でも、3つの要因が重ならないと発病はしません。よって、この3つの条件を外すことが病害対策の大切なポイントとなります。

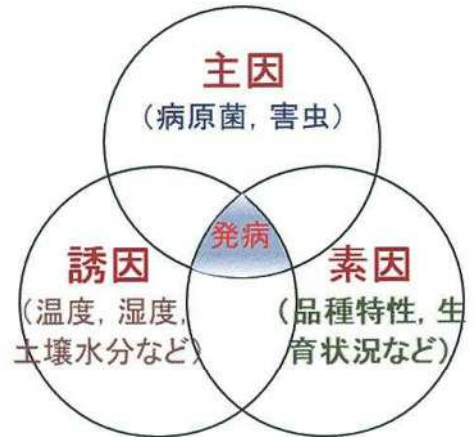


図2 病害発生の三要因

4 病害の対策と方法

・主因を除く

病原菌を畑に入らせない、入った菌を除く。そのためは、土壌消毒を確実に、苗を購入する場合はしばらく隔離栽培して様子見をする、1日の作業のうち発生ほ場での作業は最後に行うようにしてください。

・誘因を除く

病原菌が発生しやすい環境を作らない。立枯性病害が発生しやすいのは高温、多湿条件です。夏の高温対策のための寒冷紗被覆、ほ場の排水対策をする、有機物施用による土壌の団粒化を図り保水性と排水性を高める、などの対策を行います。

・素因を除く

罹病しにくい品種を作付けする。今年特に多発したフザリウム萎凋病は発生に大きな品種間差が見られました。部会等で情報共有し、出にくい品種を選定することが最も手っ取り早く、効果的な対策となります。

5 その他気をつけること

土壌消毒は土壌粒子の隅々まで農薬成分が行き渡らないと効果が不十分となります。消毒効果を高めるには土壌水分が多すぎないこと、土塊を細かく砕くこと、植物残渣が十分に腐熟することなどが大切です。